

水ビジネス110兆円 水市場の攻防

グローバルウォータージャパン 吉村 和就氏

大分政経懇話会5月例会は30日に別府市のホテル白菊で、31日に中津市のグランプラザ中津ホテルであり、グローバルウォータージャパン代表の吉村和就氏が「水ビジネス110兆円 水市場の攻防」と題して講演した。要旨は次の通り。

汚染水の処理が課題

4月に東日本大震災の被災地に入った。宮城県気仙沼市では下水処理施設が被災したため、汚水が海に垂れ流しの状態が続いている。甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市では、新たな水インフラの整備が復興の大切な部分になる。ゼロどころかマイナスからの復興になるが、東北をモデル地区とした新たな水インフ

ラを確立するチャンスでも

ある。コスト低減、短納期、高い信頼性が求められる。福島第1原発の事故は、想定を超えた天災と、政府の対応のまずさによる人災が重なっている。今後「水は将来的に巨大ビジネスになる」と大企業が乗り出してくるケースも出てきた。

国際的売り込み弱い

日本の水戦略としては、漏水防止や微量分析などが世界に誇れる高い技術が水



講演する吉村和就氏

復興へインフラ整備を

大分も資源生かして

成長しており、既に国際競争が激化している。フランス、韓国などが国を挙げて売り込みに取り組んでおり、「水は将来的に巨大ビジネスになる」と大企業が乗り出してくるケースも出てきた。

なる公共インフラのビジネスでは勝てないのが実情だ。企業間の提携、国の支援などが必要になる。海外企業はマーケティングにも力を入れており、日本も現地ニーズの十分な把握、スピード感などが求められる。

6月例会のお知らせ

- ▼大分会場 8日(水) 正午 トキハ会館
- ▼白津会場 9日(木) 正午 臼杵喜楽庵
- 三菱総合研究所 政策・経済研究センター主任研究員、シニアエコノミスト 対木さおり氏
- ▼別府会場 29日(水) 正午 ホテル白菊
- ▼中津会場 30日(木) 正午 グランプラザ中津ホテル
- 和光大学経済経営学部教授 岩間 剛一氏
- 「大震災後のエネルギー動向」

身近すぎて、ありがたさを感じていないかもしれないが、あらためて「水」というものを見直す姿勢が必要だ。大分県は水資源が豊富だが、生かし切れていない、もったいないと感じる。地元の水資源をきちんと活用していくことが、大分の未来につながっていくのではないか。

大分政経懇話会のご加入についてのお問い合わせは大分市府内町3丁目9-15、大分政経懇話会事務局 (097・5388・96)へ。

大分政経懇話会
別府・中津会場
5月例会から